

手触りの良い軽量粘土を子ども達に渡すと、まずは匂いを嗅ぎ、ちぎったりくっつけたりして遊び始めました。小さな廃材を置くと、さらに遊びが広がります。ジュースやおにぎりに見立てて遊び、容器に粘土を詰め、ほじくり穴を開け、跡をつけ、個々に、いろいろな事を楽しんでいます。廃材を組み合わせて造形したり、イメージを持って作る子もいます。

絵の具を出すと、色が混ざり変化することに驚いています。次々に混ぜ、手に塗っている人もいます。粘土を絵の具に浸し、色や感触の変化を感じている様子です。

何かを作る指示や使い方は何も言わずに、ただ見守るだけで子ども達は自分で、新しい発見を探していきました。

それぞれが興味ある事に夢中になり、すごい集中力です。顔は真剣、心の中はワクワク？それぞれがやりたい事に没頭する静かな時間でした。そして一人ひとりが満たされているせいか、平和です。

何をするか正解がなく、大人の声掛けも控え目だった。やり方も、やる事も、素材も、選択肢がたくさんあり、自分で選べた。そういう中で、自分の世界に入り込んでいけたのでしょう。

素材と出会い、こうしたらどうなるかな、やってみたい、やってみよう自分なりに問いを立てて、確かめていきます。魅力的な造形物は次々と変化し、最後には何も残らない子もいます。

自分なりの感じ方で遊びに没頭する時間は、一人ひとりの感じる心「感性」を育てる時間になるはずです。

